

Stein 多様体の領域上の正則直線束と因子

阿部 誠*

2007 年 12 月 22 日

被約複素空間 D 上の Cartier 因子とは，切断 $\mathfrak{d} \in (\mathcal{M}^*/\mathcal{O}^*)(D)$ のことである． D 上の Cousin-II 分布 $\{(U_i, m_i)\}_{i \in I}$ によって定義される Cartier 因子 \mathfrak{d} に対し，コサイクル $\{m_i/m_j\} \in Z^1(\{U_i\}_{i \in I}, \mathcal{O}^*)$ によって定義される D 上の正則直線束を $[\mathfrak{d}]$ と書く．Cartier 因子は，正則 Cousin-II 分布によって定義されるとき，正 (positive) であるという．

D が被約 Stein 空間のとき，Cartan の定理 B により， D 上の任意の正則直線束 L に対し， D の任意の既約成分上で恒等的には 0 でないような切断 $s \in \Gamma(D, \mathcal{O}(L))$ が存在する (Gunning [9, p. 124])．このとき， $L = [\text{div}(s)]$ と書けて， $\text{div}(s)$ は D 上の正因子である．

複素空間 (X, \mathcal{O}_X) は，任意の $x \in X$ に対し，局所環 $\mathcal{O}_{X,x}$ が Cohen-Macaulay であるとき，Cohen-Macaulay 空間であるという．

定理 1 (Abe [2, Theorem 4.1])． (X, \mathcal{O}_X) を (必ずしも被約でない) 純 n 次元 Cohen-Macaulay Stein 空間， D を X の開集合とし，次の 2 条件を仮定する．

- i) $H^k(D, \mathcal{O}_{X|D}) = 0$ ($2 \leq k \leq n-1$)．
- ii) D 上の正則直線束 L が，標準的な準同型の合成

$$H^1(D, \mathcal{O}_{X|D}) \rightarrow H^1(D, \mathcal{O}) \rightarrow H^1(D, \mathcal{O}^*)$$

の像に属するならば， D 上の Cartier 因子 \mathfrak{d} が存在して， $L = [\mathfrak{d}]$ (ただし， $\mathcal{O} := (\mathcal{O}_X/\mathcal{N}_X)|_D$ は D の被約複素構造層)．

このとき， D は任意の $x \in \partial D \setminus \text{Sing}(X, \mathcal{O}_X)$ において局所 Stein である．

注意 2 (Abe [2, Remark 4.2])．定理 1 の条件 i) は，次の条件 i)' と同値である．

- i)' $\dim H^k(D, \mathcal{O}_{X|D}) \leq \aleph_0$ ($2 \leq k \leq n-1$)．

Docquier-Grauert [7] により，Stein 多様体 X の開集合 D について，

$$D \text{ が Stein} \Leftrightarrow D \text{ が局所 Stein}$$

* 〒 862-0976 熊本市九品寺 4-24-1 熊本大学医学部保健学科

であるから，次のことが成り立つ．

定理 3 (Abe [2, Theorem 4.3]). X を n 次元 Stein 多様体とする．このとき，条件

$$H^k(D, \mathcal{O}) = 0 \quad (2 \leq k \leq n-1)$$

をみたす X の開集合 D について，次の 4 条件は同値である．

- (1) D は Stein である．
- (2) D 上の任意の正則直線束 L に対し， D 上の正因子 \mathfrak{d} が存在して， $L = [\mathfrak{d}]$ ．
- (3) D 上の任意の正則直線束 L に対し， D 上の因子 \mathfrak{d} が存在して， $L = [\mathfrak{d}]$ ．
- (4) D 上の位相的に自明な任意の正則直線束 L に対し， D 上の因子 \mathfrak{d} が存在して， $L = [\mathfrak{d}]$ ．

系 4 (Abe [1, Theorem 3]). 2 次元 Stein 多様体 X の開集合 D について，定理 3 の 4 条件は同値である．

系 5 (Ballico [4, Theorem 1]). X を Stein 多様体， $\varphi: X \rightarrow \mathbb{R}$ を \mathcal{C}^2 級弱 2-凸関数 (Andreotti-Grauert の意味) とする．このとき，開集合 $D := \{\varphi < c\}$ ($c \in \mathbb{R}$) について，定理 3 の 4 条件は同値である．

次のような Serre の定理 [14, p. 65] の一般化については，もっとよい結果が知られている．

系 6 (Laufer [12, Theorem 4.1]). n 次元 Stein 多様体 X の開集合 D について，次の 2 条件は同値である．

- (1) D は Stein である．
- (2) $H^k(D, \mathcal{O}) = 0 \quad (1 \leq k \leq n-1)$

$n \geq 3$ のとき，定理 3 の 4 条件は無条件には同値でない．例えば，次の命題の D は Stein ではないが， X が Stein 多様体のとき，定理 3 の条件 (2) をみたす．

命題 7 (Shiffman [15, p. 340]). X を $\dim X \geq 3$ なる複素多様体， T を $\text{codim } T \geq 3$ なる X の解析的集合とする．このとき， $D := X \setminus T$ 上の任意の正則直線束 L に対し， D 上の正則直線束 L' が存在して， $L'|_D = L$ ．

定理 1 の証明は次元 n に関する数学的帰納法による． $n = 2$ の場合は，以下の補題 8, 9 に基き，Kajiwara-Kazama [10, Lemma 2]，Grauert-Remmert [8, Satz 7]，Levi の拡張定理 (Kajiwara-Sakai [11, Proposition 3]) を用いる．

なお， $X = \mathbb{C}^n$ の場合に限定すれば，Lelong [13, p. 201] により，証明は簡略化できるが，一般の被約 Stein 空間に対して Lelong の定理を一般化することはでき

ない (Coltoiu-Diederich [6], Brenner [5]).

次の補題 8, 9 において, $M := \Delta^2 \setminus \{(0,0)\}$, $U_\nu := \Delta^2 \setminus \{z_\nu = 0\}$ ($\nu = 1, 2$). ただし, Δ は単位円板である.

補題 8 (Ballico [3, Remark 1.4]). M 上の正則直線束 L に対し, 次の 2 条件は同値である.

- (1) L は自明 (holomorphically trivial) である.
- (2) M 上の因子 ϑ が存在して, $L = [\vartheta]$.

補題 9. 関数 $h \in \mathcal{O}(U_1 \cap U_2)$ について, 次の 2 条件は同値である.

- (1) $e^h \in \mathcal{O}^*(U_1 \cap U_2)$ の定める M 上の正則直線束は自明である.
- (2) h の $(0,0)$ を中心とする Laurent 展開は $cz_1^{-m_1} z_2^{-m_2}$ ($m_1 > 0, m_2 > 0, c \neq 0$) の形の項をもたない.

補題 10 (Abe [2, Lemma 3.2]). D を \mathbb{C}^n の開集合, H を \mathbb{C}^n の超平面とする. このとき, D 上の任意の Cartier 因子 ϑ に対し, D 上の Cartier 因子 c が存在して, 台 $|c|$ は $Z := D \cap H$ において疎 (nowhere dense), かつ $[\vartheta]|_Z = [c|_Z]$.

補題 8 は次の命題から直ちに得られる.

命題 11. X を $\dim X \geq 2$ なる複素多様体, T を $\text{codim } T \geq 2$ なる X の解析的集合とする. このとき, $D := X \setminus T$ 上の任意の Cartier 因子 ϑ に対して, X 上の Cartier 因子 ϑ' が存在して, $\vartheta'|_D = \vartheta$.

一般の被約 Stein 空間 X の開集合 D について, 定理 3 に相当することが正しいかどうかについては未解決であるが, 定理 3 よりも詳しく, 次のことが成り立つ.

定理 12. $\text{Sing}(X)$ が離散的, かつ任意の $x \in \text{Sing}(X)$ が商特異点であるような, n 次元 Stein 空間 X を考える. このとき, 条件

$$H^k(D, \mathcal{O}) = 0 \quad (2 \leq k \leq n-1)$$

をみたま X の開集合 D について, 定理 3 の 4 条件は同値である.

系 13. 任意の $x \in \text{Sing}(X)$ が商特異点であるような 2 次元 Stein 空間 X の開集合 D について, 定理 3 の 4 条件は同値である.

参考文献

- [1] Abe, M.: Holomorphic line bundles on a domain of a two-dimensional Stein manifold. *Ann. Polon. Math.* **83**, 269–272 (2004)
- [2] Abe, M.: Holomorphic line bundles and divisors on a domain of a Stein manifold. *Ann. Scuola Norm. Super. Pisa Cl. Sci. (5)* **6**, 323–330 (2007)
- [3] Ballico, E.: Holomorphic vector bundles on $\mathbf{C}^2 \setminus \{0\}$. *Israel J. Math.* **128**, 197–204 (2002)
- [4] Ballico, E.: Cousin I condition and Stein spaces. *Complex Var. Theory Appl.* **50**, 23–25 (2005)
- [5] Brenner, H.: A class of counter-examples to the hypersection problem based on forcing equations. *Arch. Math. (Basel)* **82**, 564–569 (2004)
- [6] Coltoiu, M., Diederich, K.: Open sets with Stein hypersurface sections in Stein spaces. *Ann. of Math. (2)* **145**, 175–182 (1997)
- [7] Docquier, F., Grauert, H.: Levisches Problem und Rungescher Satz für Teilgebiete Steinscher Mannigfaltigkeiten. *Math. Ann.* **140**, 94–123 (1960)
- [8] Grauert, H., Remmert, R.: Konvexität in der komplexen Analysis. Nicht-holomorph-konvexe Holomorphiegebiete und Anwendungen auf die Abbildungstheorie. *Comment. Math. Helv.* **31**, 152–183 (1956)
- [9] Gunning, R.C.: Introduction to holomorphic functions of several variables, vol. 3. Wadsworth, Belmont (1990)
- [10] Kajiwara, J., Kazama, H.: Two dimensional complex manifold with vanishing cohomology set. *Math. Ann.* **204**, 1–12 (1973)
- [11] Kajiwara, J., Sakai, E.: Generalization of Levi-Oka's theorem concerning meromorphic functions. *Nagoya Math. J.* **29**, 75–84 (1967)
- [12] Laufer, H.B.: On sheaf cohomology and envelopes of holomorphy. *Ann. of Math.* **84**, 102–118 (1966)
- [13] Lelong, P.: Domaines convexes par rapport aux fonctions plurisousharmoniques. *J. Analyse Math.* **2**, 178–208 (1952)
- [14] Serre, J.P.: Quelques problèmes globaux relatifs aux variétés de Stein. In: Centre belge de Recherches mathématiques (ed.) Colloque sur les fonctions de plusieurs variables tenu à Bruxelles du 11 au 14 mars 1953, pp. 57–68. Librairie universitaire, Louvain (1954)
- [15] Shiffman, B.: Extension of positive line bundles and meromorphic maps. *Invent. Math.* **15**, 332–347 (1972)